

お知らせ



御懇志のお願い

この度の旭川別院本堂等改修工事にあたり、記帳書提出していただいた皆様には感謝申し上げます。

未だ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。



期日 2014 (平成26) 年6月19日~22日
旭川別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
記念事業本堂等改修工事完成奉告式
真宗大谷派 (東本願寺) 大谷暢顯門首御親修

2013年1月6日作成
調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋

別院しらべ隊

調査報告書No.27 全ては繋がっているんです

新しい年・新しい朝

新年を迎えて、今、思い出されるのはラジオから流れていた歌である。「新しい朝が来た 希望の朝だ…」小学生の夏休みには必ず歌っていた、誰もが知っている歌ではないだろうか。皆様は何回目の新年だろうか、何回目の朝を迎えているだろうか。毎年同じ新年を迎えてはいないし、毎朝といっても少しずつどこかが変わっている。



ようやく今年の末で旭川別院本堂等改修工事を終えて、綺麗な本堂へとになっていく。「別院しらべ隊」は皆様の旭川別院をより知ってもらうために、今に受け継いでいるこの本堂等を大切に次の世代へ繋いでいくために、調査を行ってきた。風景であったお寺を、本来の姿に戻していくことを念じて、調査を重ねてきた。

先達の残して頂いた想いは、本堂の大きさに表れている。100年先まで残る本堂、北海道1の大きさ、この別院の本堂こそ過去から今への「繋がり・絆」ではないだろうか。そして、今から未来への「繋がり・絆」にしていかなければならない。

先達の想いを未来に繋げていくことは、門徒の「いのち」を繋いでいくことではないだろうか。途切れることなく伝えていく事こそ、私たちの「仕事」である。

ただ古びていく建物であっては困る。「新しい朝が来た 希望の朝だ」の歌に思うことは、年を重ね風雪に耐えながら、新しい「いのち」を繋いでくれている本堂の本来の姿を感じ、それを支える門徒の一人でありたいと願うばかりである。

江戸末期～明治初期⑥

明治3年（1870年）6月下旬

青森～函館間の定期船は無かったため、同行していた手塚繁三郎は先発として函館御坊に赴き、函館門徒に迎え船の用意を頼んだ。函館門徒の代表は蒸気船を貸切り、青森港へお迎えに来た。

これとは別に、在函館の東久世開拓長官は、現如上人一行の深浦港に入港する航路での出来事を聞き、北海道開拓のために来道する一行に配慮し、福岡藩所有の軍艦を借受け、迎え船として青森港に廻航させた。



7月7日

朝になって一行は、蒸気船と軍艦の2隻に分乗して青森港を出港、夕刻両船同時に函館安着。数千人の老若男女が一行をお迎えした。

7月8日

現如上人は東久世開拓長官を訪ね、出迎えのため軍艦を派遣していただいた厚意を深謝すると共に、新道切開・新寺建立・農民移植の援助を依頼した。

7月11日

現如上人は27名を随えて函館を出発。

7月24日

岩内、余市、小樽を経由して札幌到着。
東本願寺札幌菅刈境内地を検分し、「勅賜東本願寺菅刈地所」の木標を建てた。

(現札幌別院境内)



写真…札幌別院大門前

7月25日

希望者29名に対し帰敬式を行い、帰途に就かれた。

8月13日

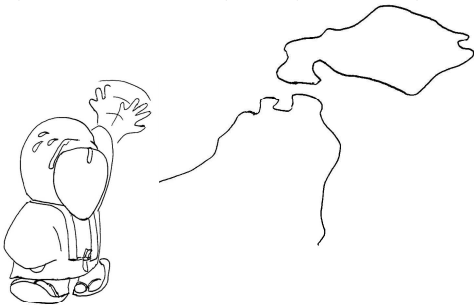
札幌を出て、小樽、余市、岩内、落部、大野、江差、福山、札幌、富川を経由し函館に到着。

8月14日～18日

新道切開・新寺建立について重要協議。

8月19日

北海道を出航し、午後には陸奥国佐井港へ着船。



9月18日

三本木、八戸、盛岡、松島、仙台、福島、二本松、宇都宮を経て東京浅草御坊へ安着。

9月21日

開拓顛末の届けを提出。その後、浅草御坊にて報告演説会が行われた。

